

巻 頭 言

大 学 で 学 ぶ

新入生諸君の大阪市立大学経済学部への入学を心よりお祝いたします。

諸君は晴れて大学生となりました。大部分の新入生にとっては、大学は最後の学生生活の場となります。つまり社会人一步手前ということです。これに規定されて、大学は高校までとはいくつかの点で大きく異なります。ここでは二点だけ取り上げてみましょう。

第一に、大学ではあらゆる面で自由度が大幅に上昇します。カリキュラム一つとってもその多くは選択科目ですから、どのような受講計画を立てるかは学生一人一人の判断に依存します。出欠もすべての授業で毎回確認されるわけではありません。授業を聴講するか、自宅で関連書籍を読むか、はたまた寝ているかも諸君の選択次第です。

このような自由度の上昇は、自らの選択の結果を自ら引き受けなければならないということを同時に意味しています。授業に出ずに家で寝ているという選択の結果、試験での不合格のリスクが高まること、最終的には留年や除籍といった事態を招きかねないことを予め自覚しておく必要があります。

高校までなら誰かが注意してくれたであろうことも、大学ではそうではありません。多くの場合、選択の結果だけに諸君は直面します。したがって FAIL SAFE という発想が重要になります。

第二に、大学では問題を発見・発掘する能力、発掘した問題を自ら解決する力を養うことが求められます。これまで諸君は与えられた問題に対して定められた解答をすることに慣れていたでしょう。そこには必ず正解が用意されていました。しかし、これから諸君は正解が何か必ずしも明確でない世界に入ります。そこでは問題の立て方の是非そのものが問われるとともに、解決に至る接近方法が多面的に検討されなければなりません。ある場合には、学生諸君の間での意見交換や、先生方に指導・批判をおおく必要が生じます。実地調査が要求されることもあります。最終的には、自らが到り着いた結論を説得力ある方法で発表しなければなりません。予め用意された正解の単純再生産と

は異った水準で、論証ないしは実証する能力を養うことが大学生生活の大きな目標の一つになります。

ところで、大学生生活四年間には入学料や授業料といった目に見える経費が掛かるほかに、諸君が大学生生活をおくるという選択をしたことによって失われる所得機会があります（経済学ではこれを機会費用といいます）。所得機会を失った上に、費用を掛けているわけですから、その成果大なるを求められるのは当然でしょう。授業に出て内容理解につとめるのは最低限のことで、それだけでは、十分とはいえません。大学では自学自習が重要です。学術情報センター等を活用して、授業内容に関連した諸文献を自ら読破し、消化するという経験も大学生の醍醐味でしょう。惰眠を貪っている暇はありません。自己啓発に大いに努めて下さい。『経済学雑誌』の本誌および別冊も、諸君の学習・研究に大いに役立つはずです。

大阪市立大学経済学部には脈々と受け継がれ蓄積されてきた学問研究面での諸資源を諸君が活用し、成長することを願っています。経済学部教員は助力を惜しまないでしょう。

2005年4月

大阪市立大学経済学会会長

松 島 正 博